

こころのビタミン

May 1, 2013 / The 57th Letter
From Yasushi Nakano To You



いよいよ宇宙旅行の時代！ ～無重力体験なら気軽にできます～

先月のある日、知人に誘われ、宇宙飛行士山崎直子さんのご主人、山崎大地（たいち）さんの講演を聞きました。あっという間の2時間の講演で、とても面白かったですし、刺激を受け

ました。

前半1時間は奥様が宇宙に飛び立つまでのエピソードのご紹介。スペースシャトルに乗り込むことが決まると、家族全員アメリカで生活するようになります。そして、1ヶ月に1度は宇宙飛行士の家族同士が、幹事持ち回りでホームパーティーを開くことが「決まっている」のだそうです。なぜ「決まっている」と思いますか？それは、万が一事故が起きて、全員が死亡したとき、その悲しみを分かち合えるのは同じ宇宙飛行士の家族同士しかいないからだそうです。だから今のうち仲よくなっておけと…。

後半1時間の話も、とても刺激を受けました。後半のテーマを私がつけるとすれば「あなたも行ける宇宙旅行！」

2001年4月、初めて自費で宇宙に旅行に行った人がいます。デ

ニス・チトーさんというアメリカ人。ロシアのロケット、ソユーズで国際宇宙ステーションを訪れて8日間近く滞在し、地球に帰還しました。その後、10名弱の人達が宇宙を旅しています。気になるのは価格ですよね。調べてみたところ、約30億円。高い。高すぎる…。日本でのお申し込み先はJTBですが、現在は募集を停止しています。

30億円は高すぎるけれど、もっと安ければぜひ宇宙へ行ってみたいと思っているあなたに、さらなる情報を！（山崎さんの受け売りですけど）

みなさん、お手元にスマホやパソコンがありましたら、インターネットの画面を開いて『クラブツーリズム 宇宙旅行』で検索してみてください。ナント！日本の有名旅行代理店、クラブツーリズムが宇宙旅行企画を販売していることがお分かり



いただけると幸いです。

ヴァージンレコードで有名なヴァージンが、宇宙旅行を企画しています。宇宙旅行時間は約4分。そう、たったの4分です。ただし、4分間とはいえ、無重力状態を体験できますし、地球を宇宙から眺めるという、夢のような体験ができます。しかも、2013年就航予定とあります。2013年？今年じゃないですか！さて、気になるお値段の発表です。約2000万円（1ドル100円換算）！いかがですか？30億円と聞いた後に、1800万円と聞くと「激安じゃん！」と思いませんか？（思わないかな…(^_^)）

この時の山崎さんのお話が面白かった。『皆さん、2000万円を自分で出そうと思うから高く感じるんですよ。この宇宙へ行ける飛行機は6人の乗客を乗せることができます。乗客の中には、必ず「宇宙で結婚式を挙げたい」という人が出てくるはずですよ。その時に必要となるのは「神父さん」。宇宙での挙式をしたことがある神父さんなんか、誰もいません。そこで、あなたが機先を制して「私、宇宙神父です」と名乗ればいいのです。そうしたら、乗客があなたのサービスを受けるために、あなたの運賃を含めて支払ってくれるでしょう。要は宇宙空間でのサービスなんか、誰もやったことがないんだから、言った者勝ち、やった者勝ちです。』

まあ、本当はクリスチャンでもないのに「神父さん」は難しいような気がします。要は既成概念を取り払って物事を考えてみませんか？ということをお願いしたいのだと受け止めました。

え？そうは言ってもやっぱり2000万円は高すぎる？まあ、そう



概要

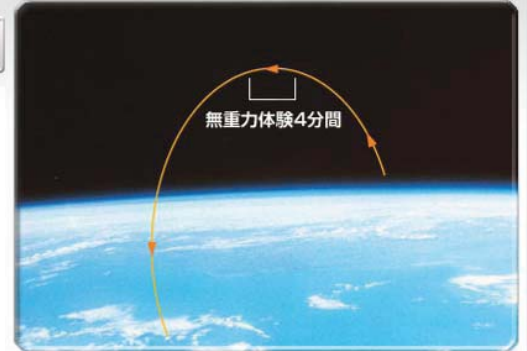
- 実施日時 2013年 運行開始予定
- 出発地 米国ニューメキシコ州ヴァージンギャラクティック社宇宙旅行基地
- 参加料金 おひとり20万USDドル
※料金には、3日間の訓練プログラム参加費用と、宇宙旅行フライトの費用が含まれています。

ヴァージングループ リチャードブランソン会長 ▶



フライトスケジュール

マザーシップ(ホワイトナイト2号)にて、高度16km付近までスペースシップ2を運び、その後切り離し、ロケットエンジンが点火。音速の3倍のスピードで3.5GのGフォースを受け、高度110kmの宇宙空間へ。約4分間の無重力体験をしながら、窓の外に広がる宇宙空間と地球の姿を存分にお楽しみください。その後、地球に帰還。全フライトタイムは約2時間の予定です。



ですよ。大半の人にとっては高すぎます。私はプラズマテレビや液晶テレビと同じように、年を経るごとに価格が安くなっていくのではと予想しています。一番乗りを狙いたい人は高い金額を出していただき、高い金額を出せない人は、数年～十数年、価格の推移を見守るといった選択になりそうです。

で、最後にもう一つご紹介。宇宙から地球を眺めるのは当面諦めるにしても、無重力状態を体験することができます。

インターネットで『日本宇宙フォーラム 無重力』で検索してください。場所は名古屋。特殊な飛行機に乗り、急上昇。床に押しつけられるような重力を感じていると、ある瞬間、フッと体が浮きます。詳しい仕組みは私も分かりませんが、こうした特殊な飛行をすることで、人工的に無重力状態を作り出すことができるのだそうです。無重力を体験できるのは約20秒間。90分間のフライトで約7回の無重力状態を体験できます。費用は40万7千円。ただ、年2回程度しか募集がされず、しか

も、いつ募集するかは「随時ホームページを見て確認してください。」という不親切さ。

このツアーは山崎大地さん主催のものもありまして、こちらは65万円。山崎さんならではの楽しいお話や、その他もろもろ付加価値がついての価格のようです。

下の写真の方はお医者さんです。1回目は無重力で医薬品の実験をしていたそうなのですが、無重力の楽しさに目覚め、再度無重力体験に申込み。竹ぼうきを機内に持ち込み、魔女のように飛ぶことができるかどうか実験したそうです。私もやってみたいなー(^O^)/





昔のカレンダーで季節を味わう

【前編】旧暦ってこんな暦だったんだ！

ここ数年の私のテーマの一つは「自然とともに生きる」です。と言ってもそれほど大げさなものではなく、季節感を味わう感性を身につけようという程度のもので。ところが、私にとっては意外に難しいです。

数年前、次男の出産に備えて家内が入院していた頃、家内を見舞いに病院まで行ったことがありました。既に病室にいた家内の両親から「空は晴れていた？」と尋ねられました。「え？分かりません。」「なんで？」「いやー、別に空を見ながら歩いていたわけではないので、晴れているのか曇っているのか…。雨は降っていないことだけは確かです。」私の元々の感性なんて、お恥ずかしながらこんな程度です。

そんな私が先月から俄然興味を持ちだしたのが、暦。今でいうカレンダーです。昔の暦の仕組みを調べていくと、太陽や月の動きと密接な関係があることが分かりました。また、旧暦を知ることによって季節に関する新たな視点を得ることができることも分かりました。そこで、今月号では旧暦の概要や仕組みをご紹介します。

● 暦は誰が作っていたか？

皆さんはカレンダーくらい誰でも作れるだろうと思っていますよね？それは現代の話です。古代中国で暦を作る人はただ一人。時の皇帝です。もちろん、実務を行う人は別にいるのですが、皇帝の名で暦を作り、配布します。

なぜ皇帝だけしか作ることがで

きないのでしょうか？

皇帝とは、地上や人間世界を支配する代行者として、天から認められた存在です。皇帝は天体の動きを観測・予測し、正確な暦を民に与えて、生産活動に従事させることが大切な役割の一つだったのです。そして、その暦を利用するということは、皇帝の支配下に入ることの意味しました。

こうした概念は日本でも踏襲され、飛鳥時代の推古天皇の治世の60年代初頭、日本で最初の暦が作成されました。以後、暦は朝廷が作成するものとされ、実務は陰陽寮（おんみょうりょう）という朝廷内の役所が担当し、以後、朝廷や、江戸時代になると幕府の監督の下、暦が作成されるようになりました。

● 暦の原点“お月様”

「年」という言葉があります。「とし」とは、元々「穀物」を意味し、特に稲を指す言葉でした。穀物が実り終わってから、次の穀物が実るまでの期間が1年間であることから、次代を経るに従い、「とし」という言葉は1年を表すようになりました。

古代の人の大半の職業は農業でしたので、1年のサイクルを知ることが生活に直結しています。それではどうやって1年のサイクルを簡単に知ることができるのか？そこに登場するのが「月」です。月は毎日その姿を変えることは皆さんご存知の通りです。新月から満月を経て次の新月へ。この期間を観測すると、約29.53日。これを電卓で12倍してください。354.36日となります。365日に10.61日不足していますが「ほぼ1年」ですね。太陽暦を知っている私達からすると、10.61日不足しているのが気になって仕方がありませんが、開き

直って、これを「1年」と考える、これが「太陰暦」です。「太陰」とは「太陽」の反対語でして、月を表しています。月を元にした暦ということです。

なお、「1ヶ月29.53日」は理論上の話なので、実際は29日の月と30日の月を作って対応します。イスラムでは現在でも太陰暦を採用しています。

● 太陰暦の長所

太陰暦の長所は何と言っても分かりやすいところにあります。

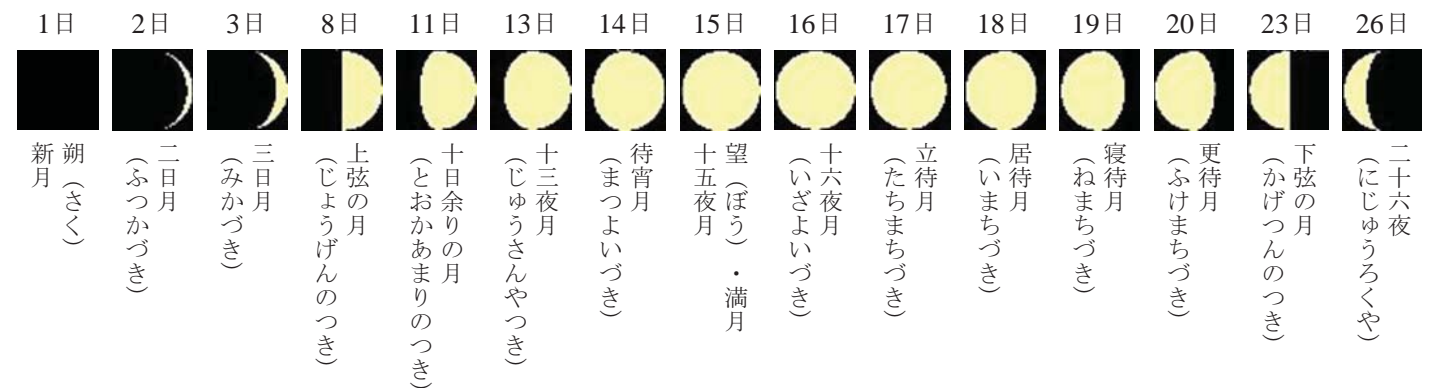
皆さん、カレンダーを見ずに今日が何日か分かりますか？驚くことに、太陰暦で生きている人達は簡単に答えられるんですよ。なぜかという月の形がそのまま日付になっているからです。

お月様が見えない新月は1日。三日月の日は3日。だから「三日月」って言うんです。右半分が見える半月（上弦の月と言います）は8日頃。満月は15日。左半分が見

える半月（下弦の月と言います）は23日頃。月末になると、また新月一歩手前なので、肉眼では見えなくなります。この繰り返しです。

「1日」を「ついたち」と読みますが、これは「月立ち」という言葉が由来です。「立ち」は「旅立ち」という言葉で使われる「立ち」と同じ用法で、「始まる」という意味です。「月立ち」は新月から満月へ、新しい月がここから始まるという意味であり、同時に、新たな1ヶ月が始まるその日であることを表しています。

他にも「1ヶ月、2ヶ月…」というように「月」という言葉を使ったり、「1月、2月」というように「月」を使っています。今では月の形と連動しない暦を使っているので、あまりピンと来ませんが、月の形に連動した暦を使っていた頃の名残りなんですね。



● 太陰暦の欠点

日にちが分かりやすい太陰暦ですが、もちろん欠点もあります。それは「季節と連動しないこと」です。1年で10.61日（以下、端数を切り上げて11日とします）ズレるとなると、3年後には11日×3=33日ズレます。ほぼ1ヶ月のズレです。17年後ですと、11日×17=187日のズレ。ほぼ半年ズレます。ある年の1月は真冬なのに、17年後の1月は真夏になってしまうのです。

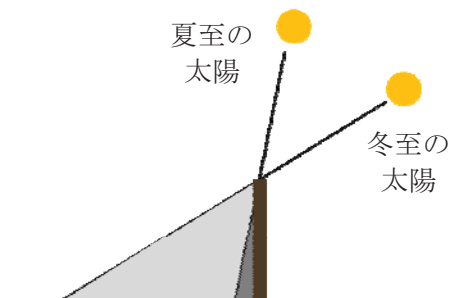
前述のイスラム暦を使用している国は砂漠の国が多く、四季（気候の変化）がほとんどないことから、あまり問題にならないのです

が、気候の変化に合わせて農作物を作る中国や日本の人にとっては、これでは困ります。

太陰暦の分かりやすさを残したまま、何とか季節のズレを補うことはできないのでしょうか？この難題を解決するカギを握っているのが、太陽の動きです。

● 太陽暦の登場

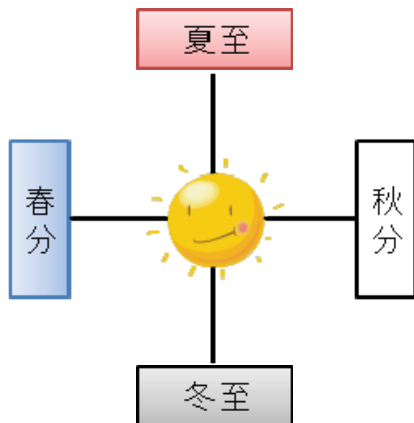
月の話はいったん横に置いておき、今度は太陽の話をしていきます。夏の太陽は天の高いところまで昇り、冬になると、低いところまでしか昇りません。したがって、同じ時刻でも、夏は影は短く、冬になると影は長くなります。



このことに気づいた古代の人は、高い棒を地面に立て、毎日影の長さを計り続けました。すると、影の長さは約365日（正確には365.2422日）周期で変わることが分かりました。

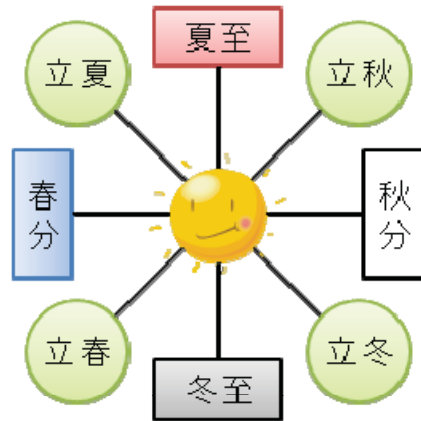
この棒の影の長さが一番長くなる日を「冬至」とし、一番短くな

る日を「夏至」とします。そして、冬至から夏至へ向けての中間点を「春分」、夏至から冬至へ向けての中間点を「秋分」としました。これを「二至二分」と言います。



春分と秋分は、昼の長さや夜の長さが同じであり、太陽は真東から昇り、真西に沈む特殊な日です。

冬至は冬の真っ最中、夏至は夏の真っ最中、春分は春の真っ最中、秋分は秋の真っ最中ですから、それぞれの中地点に、春夏秋冬の始まりの日を入れると収まりがよさそうですね。こうしてできたのが立春、立夏、立秋、立冬



です。これを「四立」と言います。

そして、二至二分と四立を合わせて「八節」と言います。

さて、ここでお月様に再度ご登場願います。太陰暦の場合、1年を12ヶ月として考えるとお話ししました。

太陰暦の「12(ヶ月)」と太陽の動きから割り出した「8(節)」の最小公倍数を求めると、「24」となります。そこで、八節の各節と節の間に2つつつ季節の節目を挿入します。こうしてできたのが二十四節気です。24の節気の半分は12。太陰暦の「12ヶ月」と組み合わせやすくなりました。

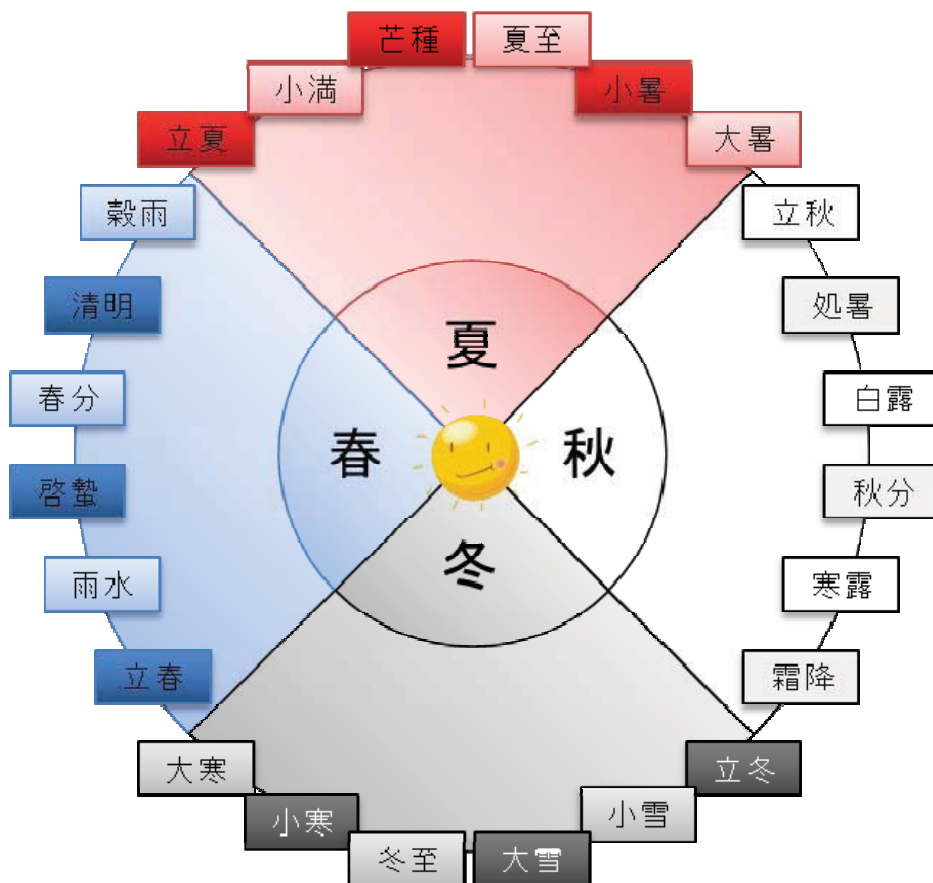
ところで、私たちは現在、太陽暦のカレンダーを使っていますが、1か月ごとに紙をめくるカレンダーの影響で、1年サイクルというイメージが湧きづらいです。太陽暦をイメージする場合は、二十四節気を下記の図のように一つの円として考えましょう。

なお、二十四節気は季節と連動するところが優れていますが、一巡りするのに約365日もかかります。月の動きとも連動しているわけではなく、日にちが分かりづらいという欠点があります。

● 太陰暦の欠点を太陽暦で補う

前述の通り、太陰暦は月の形を見れば日にちが分かる分かりやすさという長所はあるのですが、年を経るごとに1年につき約11日ずれるために、季節と連動しないという欠点がありました。そこで、この太陰暦に太陽の動きを元にした二十四節気を組み合わせることで、季節と連動した太陰暦を編み出しました。これを太陰太陽暦と言います。

日本では聖徳太子の時代から明治5年まで太陰太陽暦を使っていました。太陰太陽暦とはどういう暦なのでしょうか？



● 太陰太陽暦を作ってみよう！

太陰太陽暦の基本的な考え方は、その暦の作り方を追っていくとイメージが湧きやすいです。

現在のカレンダーを使って、来年の旧暦を作ってみましょう。

用意するもの

1. 2013年12月～2015年2月の新月の日の一覧表
2. 2013年冬至の日～2015年大寒の日の一覧表

どちらも、インターネットで検索すれば、情報を入手できます。二十四節気、正式には「節」と「中」の二種類に分かれ、下記の表の名前となっています。

なお、旧暦への変換作業では「中」を中心に使いますので、ここでは「節」の日付は省略します。

季節	節（せつ）	中（ちゅう）
春	立春正月節	雨水正月中
	啓蟄二月節	春分二月中
	清明三月節	穀雨三月中
夏	立夏四月節	小満四月中
	芒種五月節	夏至五月中
	小暑六月節	大暑六月中
秋	立秋七月節	処暑七月中
	白露八月節	秋分八月中
	寒露九月節	霜降九月中
冬	立冬十月節	小雪十月中
	大雪十一月節	冬至十一月中
	小寒十二月節	大寒十二月中

1 1ヶ月の区切りをつける

まず、「新月の日一覧」を元に次の作業を行います。

1. 新月の日～次の新月の日の前日までを1ヶ月とする。
2. 各月の日数を調べる。

右の一覧表のようになりましたでしょうか？お月様の1ヶ月のサイクルは29.53日であることから、1ヶ月の日数は29日か30日となりま

【用意するもの】

新月の日一覧
2013年12月3日
2014年1月1日
1月31日
3月1日
3月31日
4月29日
5月29日
6月27日
7月27日
8月25日
9月24日
10月24日
11月22日
12月22日
2015年1月20日
2月19日

中（ちゅう）の一覧	日付
2013年 冬至十一月中	2013年12月22日
2014年 大寒十二月中	2014年1月20日
雨水正月中	2月19日
春分二月中	3月21日
穀雨三月中	4月20日
小満四月中	5月21日
夏至五月中	6月21日
大暑六月中	7月23日
処暑七月中	8月23日
秋分八月中	9月23日
霜降九月中	10月23日
小雪十月中	11月22日
冬至十一月中	12月22日
2015年 大寒十二月中	2015年1月20日

【1ヶ月の区切りをつける作業】

新月の日一覧	1ヶ月（新暦）	1ヶ月の日数
2013年12月3日	12/3～12/31	29日間（小の月）
2014年1月1日	1/1～1/30	30日間（大の月）
1月31日	1/31～2/28	29日間（小の月）
3月1日	3/1～3/30	30日間（大の月）
3月31日	3/31～4/28	29日間（小の月）
4月29日	4/29～5/28	30日間（大の月）
5月29日	5/29～6/26	29日間（小の月）
6月27日	6/27～7/26	30日間（大の月）
7月27日	7/27～8/24	29日間（小の月）
8月25日	8/25～9/23	29日間（小の月）
9月24日	9/24～10/23	30日間（大の月）
10月24日	10/24～11/21	29日間（小の月）
11月22日	11/22～12/21	30日間（大の月）
12月22日	12/22～1/19	29日間（小の月）
2015年1月20日	1/20～2/18	30日間（大の月）
2月19日		

す。29日の月を「小の月」、30日の月を「大の月」と言います。

これで1ヶ月の区切りができました。新月の日は旧暦では1日とし、新月の前日の日とその月の最終日（29日もしくは30日）です。

ただし、この時点では、例えば2013年12/3～12/31が旧暦の何月に当たるのかが分かりません。

ここで二十四節気の登場です。

2 各月が何月なのかを確定させる。

前ページの「中の一覧」をご覧ください。2013年の冬至十一月中は2013年12月22日です。この日が含まれるのは12/3～12/31の期間です。そこで、この期間の「中」の欄に「冬至十一月中」と記載します。これで、この1ヶ月が「11月」であることが確定致しました（右の図をご参照ください）。

11月に冬至があるのではなく、冬至がある月が11月になるのだ、という点にご注意ください。

このように、前ページの「中の一覧」を見ながら、各月に含まれる「中」を記載します。そして、中の正式名称に含まれる「○月」の部分が一番右の欄に記載することで、右上の一覧表が完成です。

3 イレギュラー処理をする(閏月)

さて、よく見ると、10月24日～11月21日の1か月間には、「中」がありません。

月のサイクルは29.53日。一方で二十四節気の「中」のサイクルは30.44日（ $365.2422 \div 12$ ）。すると、1ヶ月29日の月の場合、前月の最終日付近に「中」が来ると、次の月に「中」が入らず、翌々月の月初に「中」が来るといったケースが生じてしまうのです。

こうした「中」のない月を「閏月」と言います。今回のように9月と10月に閏月が挟まれた場合は、閏（うるう）9月と言います。

これで、旧暦への変換が完成しました。旧暦1月1日からの1年に絞った図にすると、右の図のようになります。

なお、旧暦の作り方は、本当はもっと複雑です。とはいえ、基本的な概念はこれで分かりいただけるかと存じます。

【各月が何月かを当てはめる作業】

1ヶ月（新暦）	1ヶ月の日数	中	月
12/3～12/31	29日間（小の月）	冬至十一月中（12/22）	11月
1/1～1/30	30日間（大の月）	大寒十二月中（1/20）	12月
1/31～2/28	29日間（小の月）	雨水正月中（2/19）	1月
3/1～3/30	30日間（大の月）	春分二月中（3/21）	2月
3/31～4/28	29日間（小の月）	穀雨三月中（4/20）	3月
4/29～5/28	30日間（大の月）	小満四月中（5/21）	4月
5/29～6/26	29日間（小の月）	夏至五月中（6/21）	5月
6/27～7/26	30日間（大の月）	大暑六月中（7/23）	6月
7/27～8/24	29日間（小の月）	処暑七月中（8/23）	7月
8/25～9/23	29日間（小の月）	秋分八月中（9/23）	8月
9/24～10/23	30日間（大の月）	霜降九月中（10/23）	9月
10/24～11/21	29日間（小の月）		
11/22～12/21	30日間（大の月）	小雪十月中（11/22）	10月
12/22～1/19	29日間（小の月）	冬至十一月中（12/22）	11月
1/20～2/18	30日間（大の月）	大寒十二月中（1/20）	12月

【旧暦への変換完成図】

1ヶ月（新暦）	1ヶ月の日数	旧暦
1/31～2/28	29日間（小の月）	1月1日～29日
3/1～3/30	30日間（大の月）	2月1日～30日
3/31～4/28	29日間（小の月）	3月1日～29日
4/29～5/28	30日間（大の月）	4月1日～30日
5/29～6/26	29日間（小の月）	5月1日～29日
6/27～7/26	30日間（大の月）	6月1日～30日
7/27～8/24	29日間（小の月）	7月1日～29日
8/25～9/23	29日間（小の月）	8月1日～29日
9/24～10/23	30日間（大の月）	9月1日～30日
10/24～11/21	29日間（小の月）	閏9月1日～29日
11/22～12/21	30日間（大の月）	10月1日～30日
12/22～1/19	29日間（小の月）	11月1日～29日
1/20～2/18	30日間（大の月）	12月1日～30日
1年の日数	383日	

● 閏月の頻度

先程も申し上げたように、太陰暦は1年約354日。太陽暦は1年約365日。その差は11日。3年経つと33日のズレが生じます。このズレを補うのが閏月の役割です。閏月になると、今回の例のように1年383日前後となります。この閏月、正確には19年に7回発生します。

太陽暦:

$365.2422日 \times 19年 = 6939.6018日$ 。

太陰太陽暦:

$1ヶ月 29.53日 \times (19年 7ヶ月 \Rightarrow 235ヶ月) = 6939.55日$ 。

おお〜っ！ほぼ一緒になりました。昔の人の知恵に脱帽です。

● 太陰太陽暦のまとめ

太陰太陽暦は、原則太陰暦ですが、二十四節気を組み合わせ、必要に応じて閏月を入れて季節との整合性を取っていく暦です。

ここで、今の私達から見るとビックリする太陰太陽暦の特徴を整理します。

1. 月の形を見れば今日が何日なのが大体分かる（新月の日は必ず1日）。
2. 1ヶ月は原則29日または30日。
3. 現在の暦では4月は30日、5月は31日といった具合に、月の日数が決まっているのに対し、太陰太陽暦では、年により変わる。
4. 2〜3年に1度、閏月が発生して、1年13ヶ月となる。
5. 閏月のない年は1年353〜355日、閏月のある年は384〜385日となる。長い目で見ると、これで辻褄が合う。
6. 太陰太陽暦は新月の日時や二十四節気の日時の割り出しに、高

度な計算を要するため、庶民では算出不可能。そのため、来年が何日あるのか、各月が29日なのか30日なのか等、来年のカレンダーを見ないと分からない。

● 太陰太陽暦の終焉

日本では、太陰太陽暦は千年以上にもわたって利用されてきました。太陰太陽暦の利用は明治5年12月2日をもって終わり、次の日から太陽暦が使われ始めます。次の日の日付っていつだと思います？なんとなく「明治5年12月3日」だと思いますよね？

そうではありません。太陰太陽暦の明治5年12月2日を太陽暦に換算すると「明治5年12月31日」なのです。したがって、明治5年12月2日の次の日は、太陽暦の日付になるので「明治6年1月1日」です。

千年以上続いた太陰太陽暦の中で、明治5年は1番日数が少ない1年であると思われまます。

改暦の表向きの事情は文明開化の一環です。西洋の暦を導入して、日付を合わせることで西洋とのやり取りをスムーズにすることにありました。

裏の事情もあります。当時の明治政府にはあまりお金がありませんでした。当時は今でいう月給制で役人に給与を支払っており、太陰太陽暦の明治6年は閏月のある年でした。

財政難の政府からすれば、明治6年を太陽暦にすれば、翌年の給与が1ヶ月分浮きます。しかも、明治5年の12月はたった二日。三日目には明治6年に切り替わるわけですから、たった二日のために給与は支払わなくてもよいだろう、という判断で、明治5年12月分の給与も支

払わなかったそうです。

この改暦を明治5年11月9日（太陽暦に直すと12月9日）という年の瀬も押し迫った時に発表したものですから、日本中大混乱に陥りました。カレンダー業界は「もう来年のカレンダーを印刷してしまっただよ」と嘆きますし、突然の変化についていけない国民は「太陽暦導入反対！」の声を上げました。

● 珍しく編集後記

前編のメインは旧暦の基本的な説明に終始してしまいました。来月号では、旧暦とつながりのある行事や、旧暦を現代にどう活かしていくのか等について、ご紹介する予定です。

ところで、毎月、お便りを送ると、中にはご感想を述べてくださる方がいらっしゃいます。とてもありがたいし、励みになります。

ここ2年くらい、東洋思想にハマっている関係で、先月は思い切って般若心経を取り上げてみました。あまりにもマニアックなテーマなので、どんな反応が来るか、戦々恐々としておりました。

先月いただいたフィードバックは、どれもこれも「凍えそうになりながら日光江戸村に行った」という、お便りを送るメールに書いたお話への反応ばかり（笑）。

誰からもお便りそのものへのご感想がなかったことから「マニアックすぎたか…」と反省。

今回もかなりマニアックなテーマを取り上げました。前回の反省を全く活かしていないと言えば、その通りなんですけど、「中野は最近、こんなことに興味を持っているのか」と、ご理解とご容赦をいただければ幸いです。



株式会社アイグロース
中野人事法務事務所
〒120-0034
東京都足立区千住1-4-1
東京芸術センター1706号室
TEL : 03-6914-8848